

知財を活用して新たな組み木の普及を目指す！

所在地 〒719-1197岡山県総社市窪木111

URL <https://www.oka-pu.ac.jp/>

開発内容

簡単な組み立て・分解により、間仕切り・椅子・机など、日常時から災害時までフレキシブルに活用できる組み木システム、「ふだん木」を発明。



建築学科 畠准教授



ふだん木 例（日常時）



ふだん木 例（災害時）

■ 相談のきっかけ

畠研究室は、防災ストックでありながら日常の様々な場面で活用できる「ふだん木」を企画・開発した。2種類の端部形状をもつ30mm×90mmの木材を組み合わせるだけで成立するフェーズフリーな仕組みが特徴だ。地産地消を進めることで、持続的な木材活用にも貢献できる。その性能が認められ、「キュービクル・最低限のシェルター空間」国際コンペ最優秀賞（2022年）や「ウッドデザイン賞（ソーシャルデザイン部門／技術・建材分野）」（2024年）などを畠研究室は受賞している。

全国の被災地や行政施設に「ふだん木」を広く普及させるべく、保有特許を活用した産学連携の取組を進めるに際して、大学が負う知財リスクを最小化する必要があった。そこで、畠研究室と学内コーディネーター（地域連携・研究推進課）は、INPITのアカデミア知財支援窓口にご相談を行い、知財戦略エキスパート（以下「知財EX」）による支援が始まった。

■ 知財EXの支援内容

（1）コピー商品の防止～知財権による保護～

「ふだん木」に関する特許は大学として出願されており、商標は畠准教授個人の権利として登録されている。

知財EXは、畠准教授と学内コーディネーターに対して、特許権利化に至るまでに想定される課題を説明し、各段階での具体的な対応策を検討することにした。また知財EXは商標権に関して、コピー商品の流通や、登録済の権利範囲とは大きく異なる商品分野（非類似分野）での第三者による使用を防ぐため、指定商品区分を本品の関連分野にまで広げて追加出願することを検討するよう助言した。さらに、商標権を有効

かつ円滑に行使する体制を整えるため、畠准教授から大学への権利移転について助言した。

（2）大学の契約リスクの最小化

①共同研究契約

畠研究室は、「無印良品」を手掛ける株式会社良品計画と共同研究を行い、商店街の活性化に向けた遊休不動産の利活用の検討・提案や、出店者の誘致などに取り組んでいる。2023年には、商品を陳列する什器や店舗内の装飾に「ふだん木」を使用した「無印良品 岡山表町商店街」がオープンした。

共同研究では、研究成果に関する知財の取扱いが問題になる



店舗内観（下之町）

ことが多い。既に株式会社良品計画との間で共同研究契約を締結済であったことから、知財EXは契約書の条項ごとに大学の対応状況をヒアリングし、今後の留意点について助言を行った。

②ライセンス契約

畠研究室は、「ふだん木」の実用化に向けて、まずは災害支援団体（一般社団法人）と連携して、全国の被災地や行政施設に「ふだん木」の販売を開始することを計画しており、同団体とライセンス契約を締結する必要があった。

知財EXは、ライセンス契約において大学側が特に考慮すべき事項である許諾の範囲、対価、秘密保持義務の担保、品質保証や第三者知財侵害保証について説明し、同団体からの契約に関する質問について、学内コーディネーターに考え方を助言。契約締結に向けて複数回、継続して支援を行った。

支援大学の声

- ◆ 災害大国である我が国の新たな防災の仕組みとして「ふだん木」を普及させていきたいと考える一方、知財やそれに伴う契約関係については全くの無知で、右も左も分からない状態でした。知財EXの方には質問にお答えいただくだけでなく、ふだん木や我々の想いをしっかりとご理解いただいた上で、想定される課題や留意点などについても丁寧に教えていただきました。ライセンス契約も無事締結することができ、とても感謝しております。（建築学科准教授 畠和宏氏）
- ◆ 本学の知財担当は専門知識を持たない事務職員が担当しており、また人事異動などにより、その担当も数年で変わることから、知識や経験の維持が非常に困難な状況にあります。私も知財担当1年目で今回のような複雑な事案を取り扱うことになり、非常に不安でしたが、知財EXの方には、初歩的な質問に対しても分かりやすい言葉でご回答いただき、また、丁寧に具体的なご指導とご助言を賜り、無事にライセンス契約を締結することができました。大変感謝しておりますとともに、大学内で対応が困難な事案が発生した際には、またアカデミア知財支援窓口を利用させていただきたいと存じます。（地域連携・研究推進課 富山夕香氏）

知財戦略エキスパートのコメント

- ◆ 「ふだん木」は公共性の高い商品で、広く普及を目指しながら、大学がリスクを負うことがないよう、契約面での留意点について支援を行いました。幸いにも、大学の考え方を契約相手方に理解していただくことができ、特にライセンス契約の交渉が進展したことを嬉しく思います。「ふだん木」がさらに広く普及することを期待しています。（知財戦略エキスパート 平出高久）